

ゴール指向要求分析方法

Group I3

08mi105 木下康介

08mi274 山下和希

目次

- 研究の背景と課題
- 関連研究
- アプローチ
- ゴールの優先度決定プロセスの提案
- 今後の方針
- まとめ

研究の背景と課題

研究の背景

1. ステークホルダの多様化
2. ステークホルダの目標(ゴール)も多く存在

ステークホルダ：システムに関与する個人、グループ、組織を表し、ステークホルダは要求の源泉となる

問題点

開発者が取り扱う情報が増加

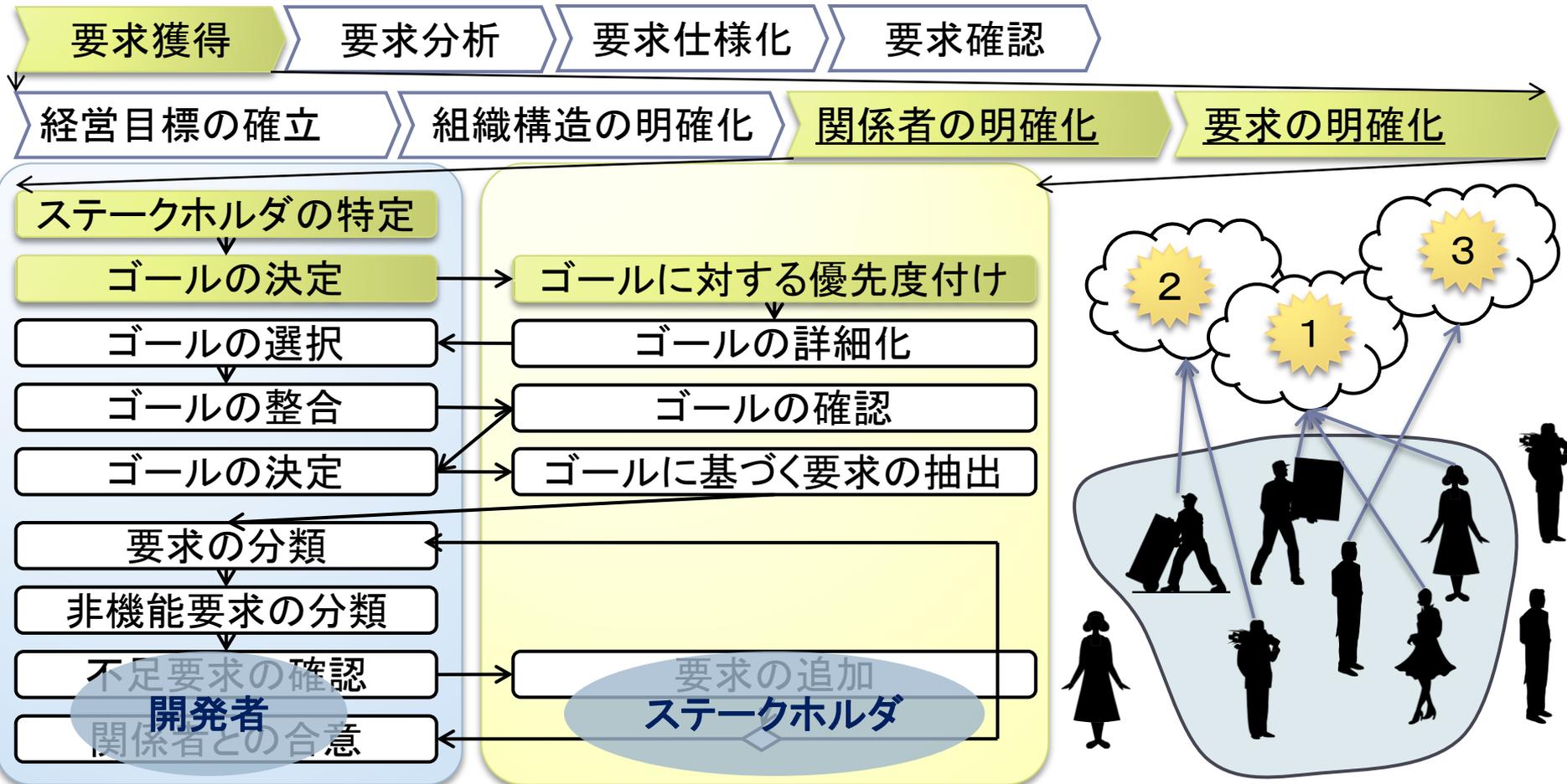
1. ステークホルダ間の関係を把握が困難
2. どのゴールに向けて開発すべきか不明確

研究課題

1. ステークホルダを絞り込み、扱いやすい情報量で分析
1. ゴールに優先度を設け
開発対象とするゴールの明確化



要求工学プロセス



[1]鈴木 香予, 村瀬 珠美, 視覚化を用いた要求獲得方法の提案 南山大学2008年度卒業論文, 2009.

[2]山本修一郎, 要求定義・要求仕様書の作り方, ソフト・リサーチ・センター, 2006.

[3]山本修一郎, システム要求管理技法, ソフト・リサーチ・センター, 2007.

関連研究[2/3]

ステークホルダ分析

ステークホルダを特定し理解するために、要求との利害関係の度合を分析する技術

システムのステークホルダを特定

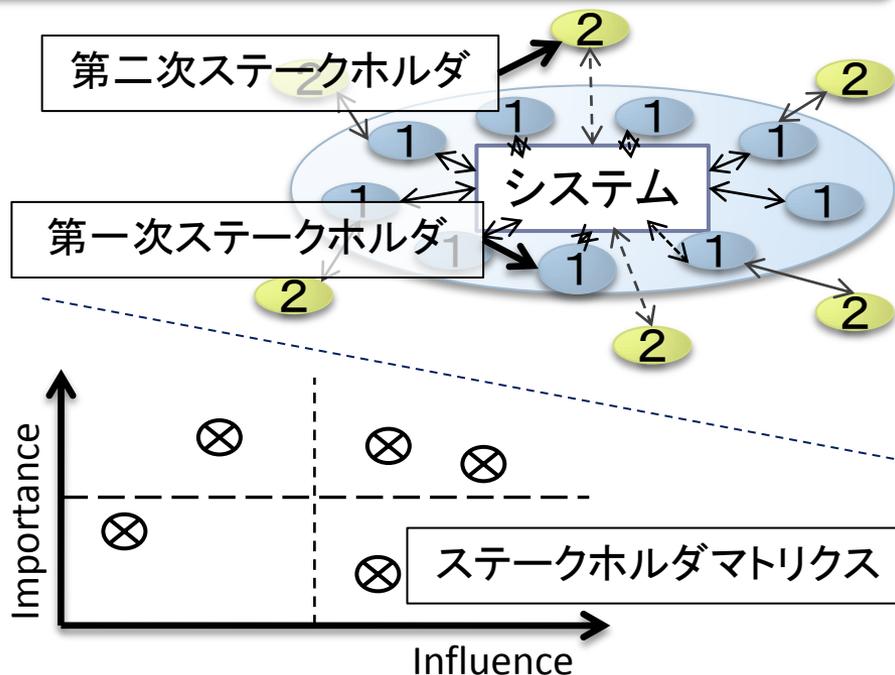
ステークホルダの要求と利害を抽出

ステークホルダ間の合意点と対立点を抽出

ステークホルダが影響を及ぼすリスクを抽出

ステークホルダの影響度の決定

具体的な分析プロセスは未定義

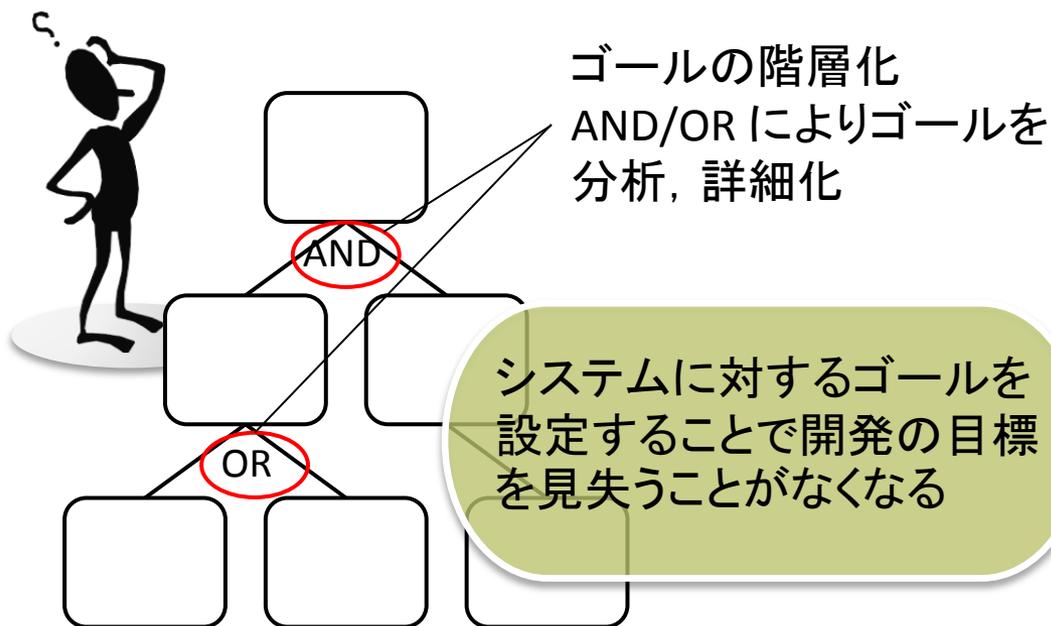


本研究では、ステークホルダの関係性を明らかにし、優先度の決定に用いる

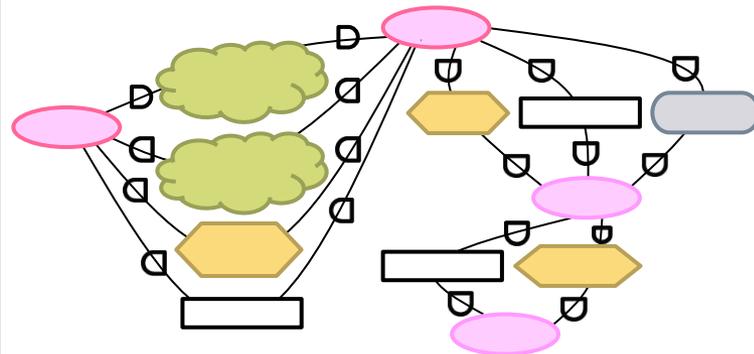
関連研究[3/3]

ゴール分析

開発対象システムの要求が達成すべき目標をゴールと定義し分析する手法



- i* フレームワーク
要素間の依存関係を示す



- KAOS
- NFR フレームワーク

本研究では、ステークホルダから抽出されたゴールの依存関係を示すために用いる

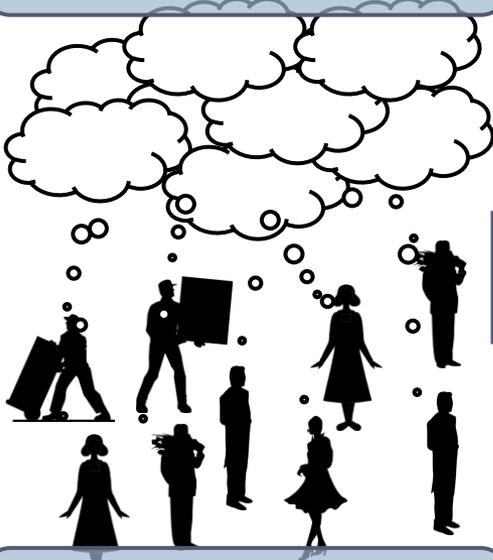
[1]山本修一郎, システム要求管理技法, ソフト・リサーチ・センター, 2007.

[2] Eric Yu , Social Modeling for Requirements Engineering , 2010.

アプローチ

ステークホルダ間, ゴール間, ステークホルダ-ゴール間の関係性に着目し, ゴールの優先度の決定, 優先度の妥当性の確認までのプロセスを提案

ステークホルダの持つ
ゴールが多く把握困難

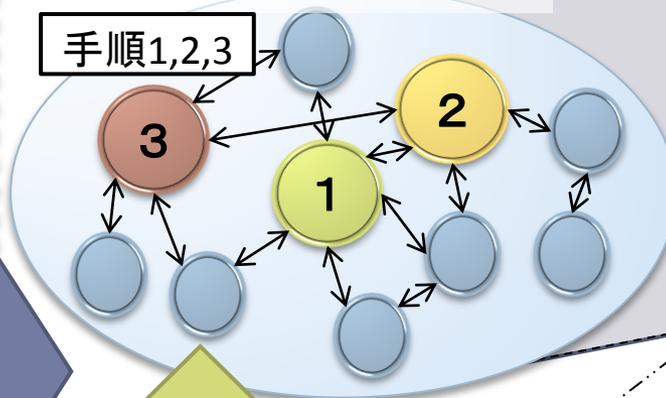


ステークホルダ多様化
により関係性の複雑化

ステークホルダ群

主要ステークホルダ

手順1,2,3



絞り込み

手順4

ゴール抽出

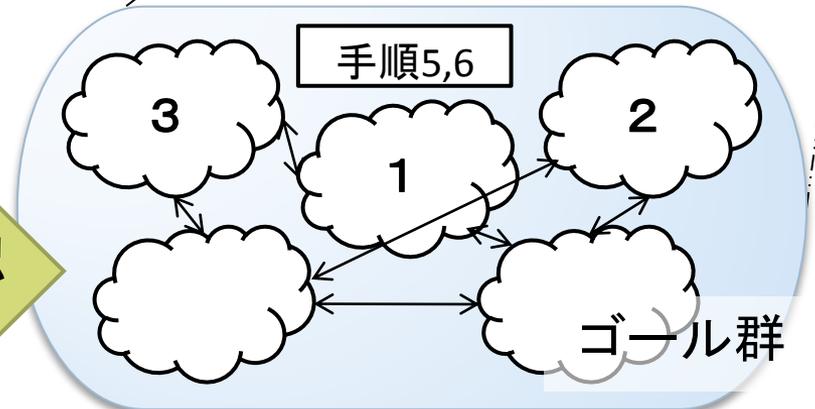


手順7

妥当性の確認



手順5,6



ゴールの優先度決定プロセスの提案

[1] ステークホルダの特定

[2] ステークホルダ間の関係性を表現

[3] ステークホルダに優先度を決定し
主要ステークホルダとして絞り込む

[4] 主要ステークホルダからゴールを抽出する

[5] ゴールとゴール間の関係性を表現

[6] ゴールの優先度を決定

[7] 優先度の付けられたゴールとステークホルダ
の関係性からゴールの優先度の妥当性の確認

ステークホルダ分析

ステークホルダ間の依存関係から、システムに対しどのステークホルダが重要であるのか優先度を決定

ゴール分析

抽出されたゴールをゴールとゴールの関係性から分析し優先度を決定

ステークホルダの優先域を拡大



今後の課題

提案したプロセスの具体化

ステークホルダ分析

対象とするステークホルダの範囲，優先度の決定
何に着目して関係性を表すかを決定

中間発表までに具体化

ゴール分析

何に着目しゴール間の関係性を表すかを決定
優先するゴールの範囲の決定
ゴールの優先度の妥当性の確認方法の決定

プロセスの評価

提案したプロセスを，実際の事例に適用

1. 提案したプロセスの有用性
2. ステークホルダの絞り込みによる情報量の変化の評価

まとめ

研究の背景

1. ステークホルダの多様化
2. ステークホルダの目標(ゴール)も多く存在

研究課題

1. ステークホルダを絞り込み, 扱いやすい情報量で分析
2. ゴールに優先度を設け, 開発対象とするゴールの明確化

提案方法

ステークホルダ分析とゴール分析を用いたゴールの優先度の決定までのプロセスを提案

今後の課題

提案したプロセスの具体化